

大山道を歩いてみる (三茶~用賀)

用賀、二子玉川を紹介するときに避けて通れないのが「大山道」。用賀も二子玉川も「大山詣」に行く旅人で栄えてきました。大山は雨乞いに靈験のある山として雨降山（あふりやま）とも呼ばれ、昔から農民たちの山岳信仰の対象とされており、江戸時代には関東地方各地で「大山講」が組織され、「春山」（4月5日～4月20日）や「夏山」（7月27日～8月17日）とされる期間に多くの人々が登拝を行った山です。大山道は8つの主要な道があり、青山通り大山道、府中通り大山道、八王子通り大山道、柏尾通り大山道、田村通り大山道、羽尾通り大山道、六本松通り大山道、蓑毛通り大山道があります。用賀、二子玉川を通るのはもちろん赤坂を起点とする青山通り大山道。今の国道246号線がそれに当たります。さすがに赤坂から歩くのは厳しいので、246と世田谷通りの二手に分かれる三軒茶屋から世田谷通りのルートを用賀まで歩いてみました。名所旧跡からオシャレなお店まで、歩くといろいろな発見があります。寄り道も楽しい大山道。皆さんも是非チャレンジしてみてください。



三軒茶屋

スタートは三軒茶屋。246と世田谷通りの分岐点に道標があります。不動尊の道標で、正面に「左相州通大山道」側面に「右富士、登戸、世田谷道」「此方二子通」という文字が刻まれています。オシャレなお店が多い右の世田谷通りルートを選択



左の路地を寄り道しながら見ても楽しい商店街を満喫。写真中ではコーヒー豆販売店、右は床屋さんです。さすが三茶！



環七と交差する若林の交差点を直進。歩道も広く歩きやすいですよ。



下町情緒溢れる松陰神社商店街に寄り道すると楽しいです。



浄土宗大吉寺。本尊は阿彌陀佛。他に正観音菩薩、釈迦誕生佛などをお祀りしています。500坪余の敷地には190本余りの杉が植えられています。入った左手にはお地藏様も。



大吉稲荷。大吉寺の左隣にあります。御利益ありそうな名前。



円光院。山門の前に「桜小学校発祥之寺」の石碑があります。真言宗豊山派の寺院。天正年間に盛尊によって開基されました。



円光院から桜新町方面へ。街路灯にも街の個性が光ります。モダンな銭湯も。



ボロ市通りに入ります。歴史的建造物や教会が



代官屋敷は一見の価値あり。詳しくは裏面へ

* てくたく刀サッチ#51「北見橋跡」と用賀2-3 *

昔、ここに品川用水が流れていました。この用水は、江戸時代の始めに玉川上水を分水して品川領戸越まで引いたものです。用賀村は、この用水に3か所橋を架けました。弦巻橋、中の橋、北見橋です。北見橋を村人は「きたんばし」と呼んでいました。そして「きたんばし」は寛政6年(1794)石の橋と変わりました。その時この橋を利用するたくさんの村の人々は、橋がいつまでも安全に渡れるよう、ここに供養塔(現在は移設)を建てました。そして、大正3年(1914)この橋は再び改修され、幅の広い橋に生まれ変わりましたが、昭和25～27年にかけて品川用水が埋め立てられたときにその橋もなくなってしまいました。





世田谷代官屋敷は江戸時代彦根藩世田谷領の代官を代々務めた大場家の居宅です。建物の中には農具などが展示されていて江戸時代の生活様式がわかります。敷地内には世田谷区の郷土資料館が併設され、昔の世田谷の写真などを見ることができます。



敷地内にある世田谷郷土資料館



「白州跡」さすが代官屋敷



移設された道標



昔の火災報知器



衛兵詰所



桜小前で左に入り用賀を目指します



右上の道標は元はここにありました



小祠は八幡社の名残。旅人の像は大山児童遊園が開設された時のもの



小祠は八幡社の名残。旅人の像は大山児童遊園が開設された時のもの



野中の地蔵。用賀口から用賀追分を結ぶ大山道沿いにある丸彫りの地蔵尊で 1832 年に建立されました



馬事公苑は現在オリンピックに向けて大改装中です。



用賀 3 丁目の大山道追分を左の大山道通り方面へ



用賀駅です



田中橋。文字通り大山道は田んぼの中の橋を渡ったため古くから「田中橋」と呼ばれていました。玉電も渡っていました。



延命地蔵尊。ここから二股に分かれます。右を行くと慈眼寺経由、左を行くと行善寺経由で二子の渡しに着きます。



1777 年女念佛講中が建立

この先続くかは現在未定



ご自宅まで配達します！ 2017 年 アサッチのオススメ本！ 8 月

マンガで笑ってほっこり

老いた親のきもちがわかる本 週刊朝日増刊 定価：880円（税込）

「どうして家じゅうに物をためこむの？」「何回言っても運転をやめてくれない・・・」親が年を取るにつれて、親のきもちがわからなくて悩んだりしませんか？ そんなときは、本書をぜひ一読してください！ 読むと心がすっと軽くなるマンガと文章で、年老いた親のきもちや行動をていねいに解説します。